

技術賞選考委員会経過報告

選考委員会

受賞者の方々、**おめでとうございます**。日頃のお仕事振りが多くのかたの共感を得て、選ばれたことは、皆さんはもとより、技官の方々の今後の仕事の進め方への指針にもなりえたと思っております。また、推薦をしていただいた方々にも感謝いたします。

今の発表を受けて選考委員会の評価内容をご報告する前に、選考の経過をかいつまんでお話ししておきたいと思えます。

- 1) 募集時の**推薦書の様式**を改定し、選考委員会の評価すべき項目を、本人が具体的に記述してもらえような様式としました。
- 2) 貴重な技術内容でもあるので、受賞者から**インターナルレポート**への投稿していただくことにし、昨年度の入賞者にお願いしました。近々の発行にむけて作業が進んでいます。
- 3) **10月に締め切り5件の推薦**をいただきました。
- 4) できるだけ正確を期すため
内容を詳細に調査することが必要と判断し、応募者個々に**調査担当委員**を決めました
規定により**レフリの意見**も聴くことも選択枝としました
さらに**他の委員**も対象者に対して一括して**ヒヤリングする機会**をつくることも可としました
- 5) 評価にあたっては公平を期すため、推薦書の内容を整理して、一定の評価項目に則って評価をすることにしました。すなわち、
 - a) 困難な問題を解決している
(文字通りの評価にあわせて、**高い技術力**があり**他の研究所のエンジニア**と伍して行ける、**創造的な技術**を見出し成果をだしている、**多くの課題**を有機的かつ綿密に処理をしているなどもand/orで含めて評価することとしました)
 - b) 解決への努力をしている
(文字通りの評価にあわせて、**継続して**課題に取り組んできた、**地道な努力**が見える、**業務遂行のパワー**が強いなどもand/orで含めて評価することとしました)
 - c) 推薦技術は担当プロジェクトへの寄与が高い
(**唯我独尊でない**ことが大切。「成果、機構への貢献」、「技術者としての貢献」とも言えますが、**ビッグプロジェクト**に参加しているとこの点が高いということにならないように気をつけるようにしました。それはプロジェクトの評価で対象の**技官の技術の直接評価**ではないからであります。)
 - d) 記録・報告など文書化がなされている
(委員の中でもこれを高く評価すべきであるという意見が非常に多くありま

した。**技術移転・伝承**への貢献ということですが、いろいろな形での記録をも広く評価していくこととしました。技術報告や論文でも、極力本人の行った技術そのものが記載されているものを高く評価することとしました。昨年度は木原前委員長が「1 篇の論文の裏に、10 篇の技術報告がある」といわれて、日常の技官の方々が、技術報告をキチンと出されることを強く主張し期待しておりましたことをつけ加えます)

e) 本人の業務への取り組みは自律的、挑戦的である

(与えられた仕事を忠実に仕上げていくということも大切ですが、この賞の対象はそれを越えた自律性やチャレンジングな業務姿勢を評価しようということであります)

- 6) なお、評価項目の**重み付け**について、ほぼ等しい重みがあるものが大勢である評価となりました。

その結果、今回の表彰対象となった **3 件= 4 名**が選考されました

以上が、選考の経過であります。

さて、個々の受賞者の方々についてのコメントであります、

佐藤節夫さん「中性子散乱実験用位置敏感検出器、PSD2K システムの開発」

- 1) 本人開発のシステムが他の研究所でも使用され有用性が実証されている。
- 2) コストやメンテナンス性など KEK の状況を考慮したシステムを構築した。そのため、必ずしも最先端の技術でないという指摘もあったが、効果はこれをカバーしてあまりあるものであった。
- 3) 機構内の報告書、関連技術雑誌への投稿など技術の伝承の取り組み姿勢が非常に高く評価される。
- 4) 今後はまわりの技術情報にも目を向け、自分の技術のオリジナリティということ意識した開発に心掛けて欲しい。

寺島昭男さん・東憲男さん「LHC 用強収束超伝導四極電磁石の開発」

- 1) LHC 開発において、基本構想実現のために、実際の構造・精度などについては、現場での経験や試験結果などを反映した問題解決をおこなった。
- 2) 技術開発内容の完成度、記録として整理されていたことは加工組立て作業のメーカへの技術移転が滞りなくできたということで実証されたが、KEK のインハウスでの技術開発の需要さを示したことは大きい成果と判断しました。
- 3) これらの技術の内容は膨大な文書と設計図の中に詳細に記載され、技術を伝承するという面からは高く評価される。
- 4) 記録については常日頃の技術報告あるいは他のメディアなどのかたちで、途中段階での問題点やその処理の過程などが、こまめに出すことを期待する。淡々として膨大な設計図に記されている内容以上に、困難な点、キラリと光る点など

が見えるようになり、将来への伝承という点で、さらに良くなるであろう。

山岡広さん「BELLE 検出器用鉄構造体の開発」

- 1) BELLE 検出器の機械的・電磁気学的な設計において、過去の経験と計算結果を活かした結合法、磁束漏れ対策と配線のバランスやコストや組立て性など考慮した設計などを地道に積み重ね、基本構想をまとめ上げた。
- 2) 計画、開発進行段階で発生したトラブルをシミュレーションなどの手段で着実に処理して実現にこぎつけた業務への取り組みや自分のポリシーを堅持するという姿勢が高く評価される。
- 3) 開発に必要なツールとしての個別技術を修得・維持し、問題点への的確な対処をしている。
- 4) 業務の経過がいろいろな形の記録に残されており技術の伝承に有効であることが認められた。
- 5) 一方で、これらがドキュメントの形で整理されていれば、将来例えば 10 年後に記録として活用される可能性も高く、このような工夫をすれば、さらに有効であると判断される。

なお以上の内容は機構の広報 HP にも発行されていますので参考にしてください。

最後に選考の後に今後についての議論をしましたので、その一部をご紹介します。

- a) 選考経過などは極力公開して、技術賞を職員に理解してもらい、推薦しやすい土壌づくりが重要であります。これはその一環としたものであり、庶務課のウェブにて、この内容の公開もお願いするつもりです。
- b) このようなことことを参考にさせていただいて、昨年、今年の推薦者の中で、惜しくも選に漏れた方も、不足分を補って、再チャレンジすることを期待することとしました。
- c) 施設部技官も技術賞の対象になっています。施設部技官諸兄のチャレンジを引き続き期待します。
- d) 当然ながら来年度も多くの技官の方が自薦応募され、教官の方々が関連の技官の方を是非推薦していただくことをお願いするものであります。

この賞でカバーしきれない功労賞的なものの設置も考えていただければありがたいと思います。